

2018 年度コミュニケーション学部卒業時アンケート

調査対象：2018 年度3 月卒業生 205 名

調査実施日：2019 年3 月23 日（学位記授与時に実施）

回答数：78 件

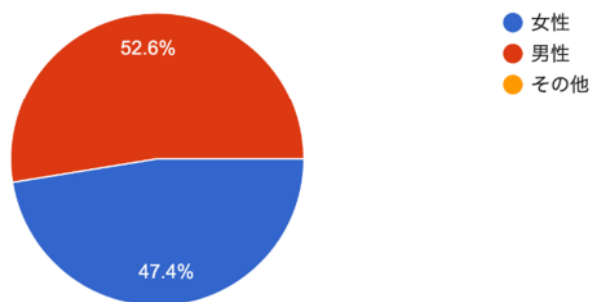
回答率：38.0%

【集計結果】

・あなたご自身に関する質問

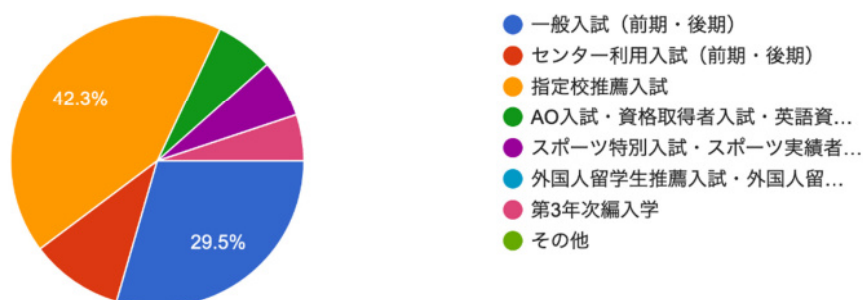
性別

78 件の回答



入学形態

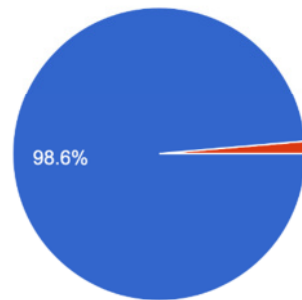
78 件の回答



・あなたの入学年度に関する質問

入学年度

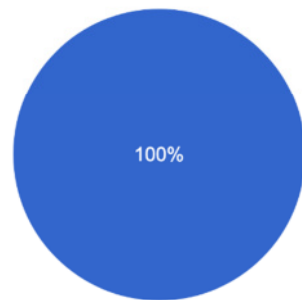
74 件の回答



・あなたの編入学年度に関する質問

編入学年度

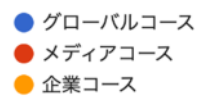
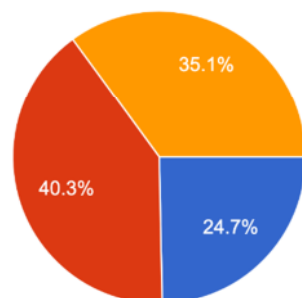
4 件の回答



・学部でのコース、卒業研究に関する質問

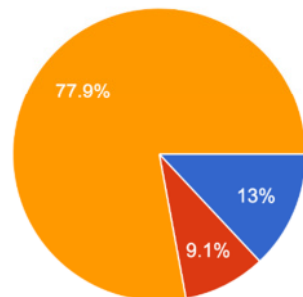
所属コース

77 件の回答



「卒業研究」の区分

77件の回答

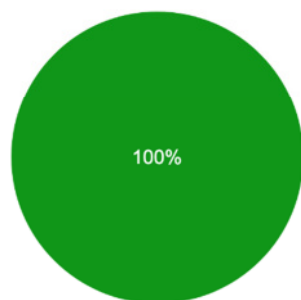


- 卒業制作（共同）
- 卒業制作（単独）
- 卒業論文

・学部での専攻、卒業制作・卒業論文に関する質問

所属専攻

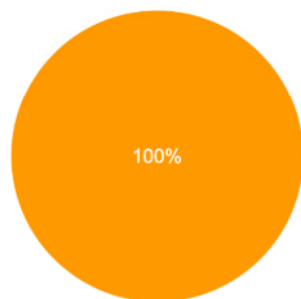
1件の回答



- メディアコミュニケーション専攻
- 企業コミュニケーション専攻
- 現代文化専攻
- コミュニケーション表現専攻

「卒業制作・卒業論文」の区分

1件の回答

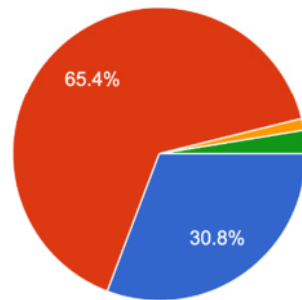


- 卒業制作（共同）
- 卒業制作（単独）
- 卒業論文

・大学での学習の成果に関する質問

「人間・社会・言語・自然」についての教養

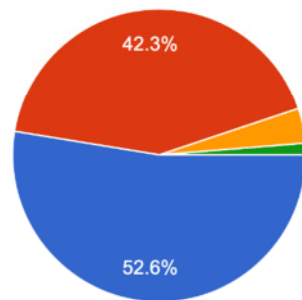
78 件の回答



- 十分に身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

他者との対話力

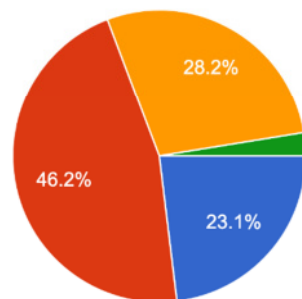
78 件の回答



- 十分に身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

他文化との対話力

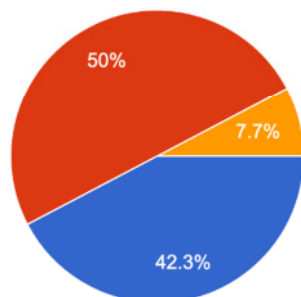
78 件の回答



- 十分に身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

メディアに関する知識

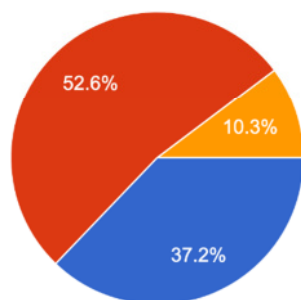
78 件の回答



- 十分に身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

情報を分析・評価する能力

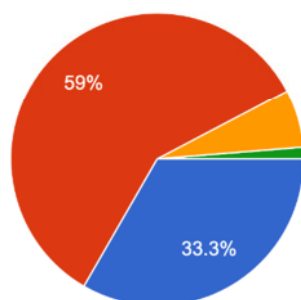
78 件の回答



- 十分に身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力

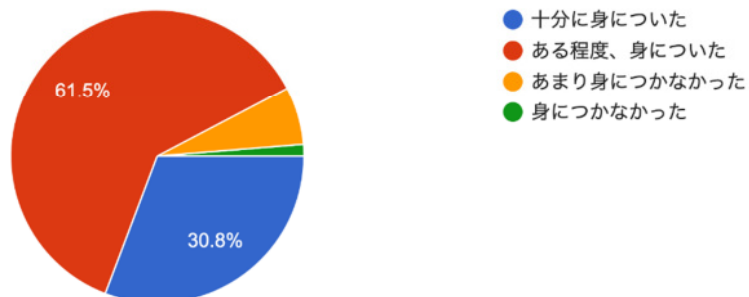
78 件の回答



- 十分に身についた
- ある程度、身についた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

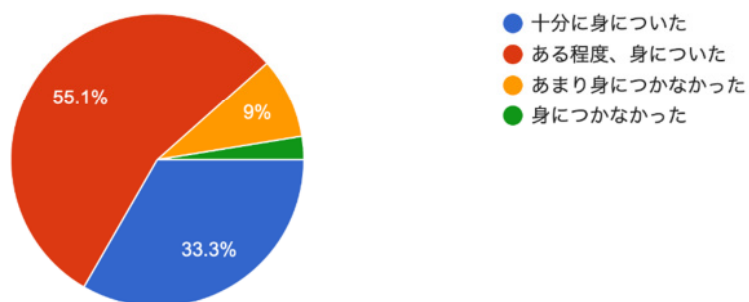
コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力

78 件の回答



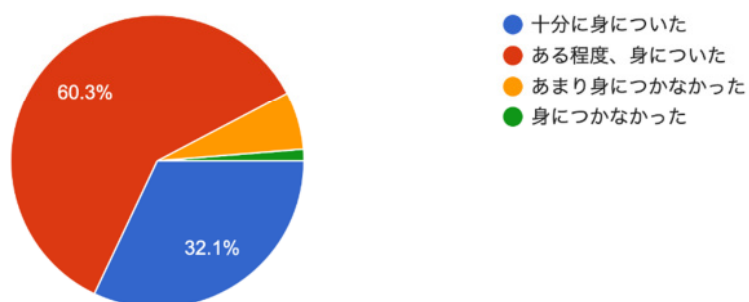
自分の考え・アイデアを表現する技能

78 件の回答



自分の考え・アイデアを伝達していくコミュニケーション技能

78 件の回答



【分析編】

2019年3月23日に、2018年度コミュニケーション学部卒業生に卒業時アンケートを実施した。78件の回答があり、卒業生全体に占める比率は38パーセント（78/205）である。

調査の主眼は、卒業時の学生が自身の4年間の学修成果をいかに感じているのか（成長実感）を可視化することであり、当学部のディプロマ・ポリシー（以下DP）に照らしあわせるかたちで行った。上記「大学での学習の成果に関する質問」が該当の項目である。以下、各DPに即して分析を行う。

「人間・社会・言語・自然についての教養」が、DP1「コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養」に該当しており、初年次教育を中心とした学習の達成度の評価にあたる。「十分身についた」「ある程度、身についた」と回答した卒業生の比率は、96.2%と高い比率を示すが、以下の主として専門科目に関わるDP2以降の項目に比較すると、「ある程度、身についた」と答えた卒業生の比率がやや高い。

「他者との対話力」「他文化との対話力」は、DP2「コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者、他文化との対話力」に対応する。前者は、「十分身についた」「ある程度、身についた」の2カテゴリーで94.9%と強い成長実感があったことがうかがわれる一方で、「他文化との対話力」については同様の上位2カテゴリーで79.3%に留まり、DP1の結果と照らし合わせると「言語／異文化」に関わる領域での実感が低い可能性がある。

「メディアに関する知識」「情報を分析・評価する能力」が、DP3「コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力」にあたり、両者とも上位2カテゴリーで90%前後と高い達成感を示している。

「コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力」「コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力」は、DP4「コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見・分析・解決する能力」に該当する質問である。こちらも両者ともに上位2カテゴリーで90%以上と高い達成感を示すが、「十分に身についた」とした回答者は30%程度に留まり、「メディアに関する知識」のような知識の修得を評価する項目と比べると、実感が若干低いことが分かる。

「自分の考え・アイデアを表現する技能」「自分の考え・アイデアを伝達していくコミュニケーション技能」は、DP5「自分の考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能」に該当し、当学部では4年間の学びの集大成である卒業研究の自己評価に主として関わる。こちらも上位2カテゴリーで90%前後を占めてお

り、高い達成感を得たと言えるだろう。

全体としては、卒業生アンケート回答者は総じて4年間の学びに高い達成感を感じており、自身の大学生活において学修面においては満足して卒業したと推測できる。今年度は「満足度」を直接問う項目がなかったため、次年度（2019年度）以降、調査項目を再度検討する予定である。

以 上